

5.15 沖縄平和行進参加報告書

東北地方ひたち支部 青年部長 木村 貴弘

2022年沖縄本土復帰50年5.15沖縄平和行進に参加してきました。コロナ渦になってからは開催がなかなか難しく、2年ぶりの行動という事で気合いを入れて活動しました。

初日は、三単産の結団式、平和学習会を行いました。平和学習会では、今後も語り継がなければならない戦争の記憶や、現在も問題となっている米軍基地についての話を聞くことが出来ました。私自身、沖縄平和行進に2度目の参加という事もあり、その辛さや現状を把握はしているつもりではいましたが、話を聞いてより一層、戦争は恐ろしく絶対に起きてはならない事で改めて、また米軍への怒りが込み上げてきたのを覚えています。この学習会により、参加者の気持ちのベクトルが一気に同じ方向へと向きました。

13日は旧海事司令部豪とひめゆり資料館視察、また全国結団式に参加しました。ひめゆり資料館の視察では、なぜ“ひめゆり学徒隊”は死ななければならなかったのか。なぜ日常生活を送ることが出来なかったのかと辛く、悔しい思いで胸がいっぱいになりました。国は“戦争”という間違っただけの選択をしました。そしてたくさんもの尊い命が奪われてしまいました。この失敗をもう二度と繰り返してはなりません。その為にも、どれだけの人々が犠牲となり、苦しんだのかを私たちは知らなければならないのです。

14日は平和行進を全力で行ってきました。今回はレンジャーを担当し、妨害をしてくる組織から行動日程を麻痺させないよう体を張り、声を張ってスムーズに行進できるよう努め、その際にたくさんの地元の方々から声をかけていただき、心が折れそうな時も支えられながら、最後までやり遂げることが出来ました。行進後は、嘉手納道の駅から嘉数高台公園で普天間基地を観察しました。基地からは住宅密集地にあるにも関わらず、オスプレイが何機も飛行しているのを見かけました。過去、近隣の大学である沖縄国際大学への墜落事故や、6年前の夜間空中給油訓練中に名護市に墜落した件など、事故が絶えず、住民からは恐怖の音がたくさん上がっております。このような状況を放っておく事は決してあってはならないと感じました。

最終日は、沖縄本土復帰50年県民集会と辺野古の視察をしてきました。辺野古視察の際は、改めてこのような綺麗な海や領土を奪う基地は絶対に許してはいけないとみんな同じ気持ちになれたと思います。そして基地を無くさせるまではこの行動を続けようと参加者は思えたと思います。

この沖縄から基地が無くならない限り本当の復帰とは言えません。明るい沖縄、私たちの豊かな生活を願ってこれからも活動していきます。